

花粉症のお薬で比較してみました

平成30年3月の総医療費は、約7億2,000万円でした。昨年同月と比較すると約4,000万円多くなっています。医療費が増加した原因の一つとして、花粉症等で医療機関を受診した方が増えたことが考えられます。花粉症の先発医薬品とジェネリック医薬品を比較してみると、以下の薬剤になります。

先発医薬品		ジェネリック医薬品		削減額
1位 シングレア OD錠 10mg	184.8円	モンテルカスト錠 10mg	42.5円	142.3円
2位 キブレス OD錠 10mg	182.2円	モンテルカスト錠 5mg	32.9円	139.7円
3位 キブレス錠 5mg	140.9円			108.0円

一番差額が大きいシングレアOD錠10mgをジェネリック医薬品に替えると1日142.3円、1か月で約4,000円、1年だと約52,000円の減額となります。

平成30年3月診療分で、花粉症の薬だけでみると削減額は下記のとおりとなります。

	*先発医薬品	ジェネリック医薬品	削減額
1日あたり	409,635円	216,684円	192,951円
1か月(28日)あたり	11,469,780円	6,067,152円	5,402,628円

※ジェネリック医薬品がある先発医薬品のみ

対象者全員がジェネリック医薬品にした場合、削減額1日約19万円、1か月で540万円以上が見込まれます。花粉症等にかかわる先発医薬品の薬剤数は4,145剤でした。花粉症の薬は、その人の症状(くしゃみ・目のかゆみ・のどの痛み・湿疹など)によって処方様が様々であるため、場合によってはかぜで処方された薬やアレルギー性の疾患で処方された薬も含まれます。

インフルエンザにもジェネリック医薬品が登場

これからの季節、かぜやインフルエンザが流行すると思われれます。インフルエンザ治療薬といえば、「リレンザ」や「イナビル」といった吸入薬を処方される方もいますが、吸入がうまくできない乳幼児は「タミフル」の処方が主流となっています。今までインフルエンザ治療薬には、ジェネリック医薬品がありませんでしたが、今年2月、厚生労働省は国内で初めてタミフルと効果効能が同じで安価なジェネリック医薬品「オセルタミビル」を承認しました。薬価はタミフルの半額となります。

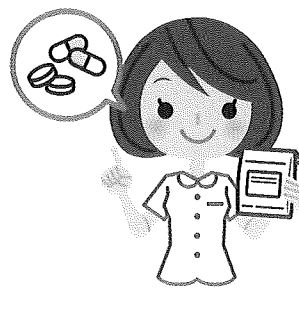
先発医薬品		ジェネリック医薬品		削減額
1回当たり処方5日分		1回当たり処方5日分		
タミフルカプセル 75mg 2カプセル	544.0円	オセルタミビルカプセル 75mg 2カプセル	272.0円	272.0円
*タミフルドライシロップ 3% 2g	400.4円	*オセルタミビル DS3% 2g	200.2円	200.2円

※ドライシロップ・DSは年齢、体重によって処方グラム数が異なります。

ジェネリック医薬品の普及率について厚生労働省は、平成32年9月までのなるべく早い時期に80%以上となることを目標としています。当組合の平成29年度の普及率は約71・6%でした。ジェネリック医薬品を使うことでみなさんの自己負担額が軽減されるとともに、当組合の医療費削減にもつながり、保険料にも影響してきます。

お子様等、窓口負担が無料の場合でも医療費の7割(未就学児は8割)以上は健保組合が負担しています。窓口負担がない場合でも積極的にジェネリック医薬品の利用にご協力ください。また、高血圧等で長期投与されている方も併せて引き続きご協力ください。

薬を見直すだけで
支出が減る



ジェネリック医薬品の利用にご協力ください

花粉症だけで1か月540万円の削減が可能です。平成29年度の当組合の総医療費は約74億円。そのうち約15億円が調剤費(お薬代)でした。被保険者1人当たりです。年間4万4467円です。調剤費削減にもっとも効果が期待できるのは、「ジェネリック医薬品」を使っていたということです。